



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年8月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

～ '07 神通研集会報告 ～

「災害」に対してのグループ報告

グループ報告

- ・災害ボランティアネットワークを立ち上げた
- ・毎月1回、聴協とサークルで話し合いの場を設けている
- ・地域では災害について取り組んだことがない
- ・講習会を行った。今後、講演会を行う予定
- ・地震に対する訓練、災害に関する講演に個人的に参加した
- ・災害ボランティアセンターの立ち上げにサークルの代表として参加。必要性は感じているが、具体的な取り組みは行っていない
- ・市の防災訓練には参加。今後、聴協・通訳者・サークルで災害に関する組織を立ち上げる予定
- ・行政と協力して取り組む必要がある
- ・待っているだけではなく、日頃からの存在アピールが大切。聴障者と接する機会が少ないと理解につながらない
- ・災害時、落ち着いたら聴障者が集まる避難所が決まっていると良いのでは
- ・誰がどこに住んでいてどこを避難所を利用するかという地図を作成した
- ・電話会社が行っている「災害用伝言サービス」の使い方についての学習会も有効
- ・宮城の集会で70%は地域の人が援助したという話があった。日頃からの交流が大切

～ 定例会 ～

7/21(月) 定例会を開催しました。

9月の集会に向け、分科会「手話サークル」の流れの確認、「災害」に関する手話の絞り込み、役割分担等の詳細を詰めました。

「災害」に関しての進捗状況は、まだまだ足並みがそろっていないようです。

午後の意見交換の柱となる「より良い交流」「サークルでのコミュニケーション」では、コミュニケーションを取るためのポイント、方法など、今後のサークル活動に生かせる内容にしたいと思います。

年に1度、他地域のサークルの様子を知ることのできる良い機会です。手話技術、経験年数に拘らないのがサークル。たくさんの方にお会いできることを楽しみにしています

【次回定例会】

8/30(土) 10:10～12:00
県民活動サポートセンター 704

～ サークル研究班メンバーのささやき～

～ 風の歌が聴きたい～

トライアスロンに挑戦する高島夫妻(ろう者)の16年間の生活の様子をテレビで見た。

ろうの親の子育ての悩み、コーダーの悩み。私の周りにいる人と同じような思いをしながら生きているのだと感じた。

そして彼ら夫妻の前向きな素晴らしい生き方に感激した。特に“ろうの親を誇りに思う”という息子さんの言葉にジーンときた。いつか彼らのその後にまた会いたいと思う。
ペンネーム A